

今、私たち一人ひとりにできること

3月11日に発生した東日本大震災は、1万5千人を超える犠牲者を出し、いまだ4千人近くの方が行方不明となっています。テレビに映る惨状を目の当たりにし、大自然の猛威の前に、私たち一人ひとりは無力であることを痛感された方も多いのではないのでしょうか。

今夏には、この大震災を原因とする原子力発電所の問題から、消費電力の15パーセント削減が叫ばれました。今まで当たり前のように使ってきた電気が限りある資源であることを浮き彫りにしたこの問題を契機に、身近にできることとして「節電」に取り組んだ方も多いでしょう。

市役所では照明の間引きを行い、冷房温度の28度設定を徹底するなどの節電対策を行いました。

商業施設では、照明の一部を消しているコンビニエンスストアや、自動ドアの電源を落として節電に協力しているスーパーマーケットなどもありました。



一般家庭の夏の消費電力は、エアコンや冷蔵庫などを使って「冷やす」ことに76パーセントが使われており、これらの使い方に気を配ることで一般家庭でも効果的な節電をすることが出来ます。

そのほかにも、「家族が同じ部屋で過ごし、照明や冷房を使用する部屋を減らすこと」で余分な電気の使用を抑えたり、ベランダにゴーヤやアサガオを植えて「緑のカーテン」を作り、その日よけ効

果で室温の上昇を抑えたりと、効果的な節電もできます。

こうして、余分な電気を使わないように心掛けることで、「今までどれだけ電気の無駄遣いをしてきたのか、どれだけ節電できたのか」と改めて気付く方もいらっしゃるのではないでしょうか。

電力の需要量が供給量を超えてしまうと大規模な停電が発生すると言われていきます。万一、停電が発生すると、たんを吸う電動の吸引器や酸素吸入の人工呼吸器が使えず、たんによる窒息や酸素不足に陥るなど医療や福祉の現場で命に関わる問題が起きる可能性もあります。「目の前にある不要なスイッチを消す」など一人ひとりが電気の使用を控えることで、電気を本当に必要とする人たちの力になり、大規模な停電を回避することが出来ます。

電気を使用することは個人の自由ですが、みんなが少しずつ節電などで協力し合うことで安定して医療や福祉を提供することができ、人の命を救うことにつながります。

今夏の停電を回避できたのは、被災地や病院・福祉施設で治療や生活を送る方々のために、何か少しでも力になりたいと一人ひとりが

が考え、節電に向かって小さな努力を積み重ねた結果ではないでしょうか。



「相手のことを考え、思いやり、行動する」ことを意識しながら、生活していくことは、節電に限らず、私たちが直面するさまざまな問題に対しても大切なことです。一人ひとりが被災地の方々のことを思い行動することで復興への大きな力になるのではないのでしょうか。

普段の生活の中で、今私たちにできる身近なことから始めてみませんか。



「人権のひろば」に対するご意見、ご感想を政策管理課までお寄せください。